

# 急反発した7-9月期米GDP

## ポイント① 戦後最大の四半期経済成長

10月29日に発表された米国の7-9月期実質GDP（国内総生産）は、前期比年率換算値（前期比変化率を1年当りに換算した値）で+33.1%と、前期の同-31.4%から急反発しました。新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済活動制限の緩和が進んだことや、金融・財政両面の大規模な景気刺激策が、GDPの急激な回復につながりました。

## ポイント② 個人消費が急増

需要項目別に見ると、GDPの7割近くを占める個人消費支出が前期比年率+40.7%（実質ベース）と、急反発しました（4-6月期は同-33.2%）。財・サービス輸出も同+59.7%と高い伸びを記録しましたが、図1が示すようにGDP比では低水準に留まっています。世界的に新型コロナウイルスの感染拡大が止まっていない中、外需の回復は鈍いようです。

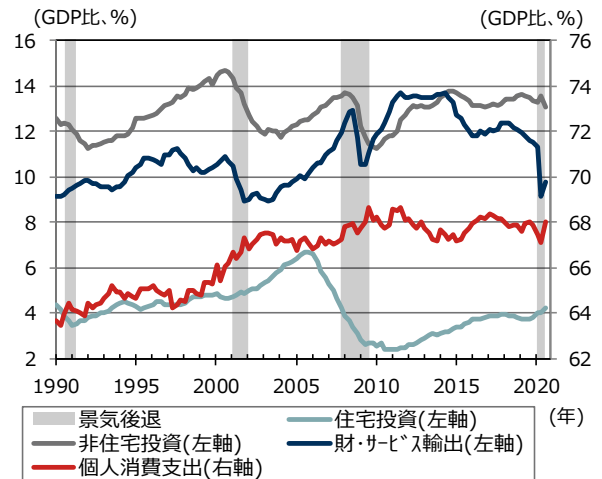
## ポイント③ 10-12月期以降は巡航速度へ

足元では米国でも感染が再拡大しており、一部で経済活動を再び制限する動きも出ています。また、追加財政支援策が決まらず、景気刺激効果が薄れてきていると見られます。10-12月期の経済成長率は、7-9月と比べて大きく減速しそうです。ただ、大統領選でトランプ、バイデン両候補のどちらが勝っても、早期に追加財政支援策を決める方向に動くでしょう。

また、図2が示すように、実質GDPは供給能力を示す潜在GDPをかなり下回っており、米国経済は依然需要不足状態にあると見られます。このため、インフレ圧力は弱く、FRB（米連邦準備制度理事会）は大幅な金融緩和を維持するでしょう。金融・財政政策に支えられて、米国景気の失速は回避されると予想されます。

### 図1：米国の主要需要項目の動向

期間：1990年1-3月期～2020年7-9月期、四半期

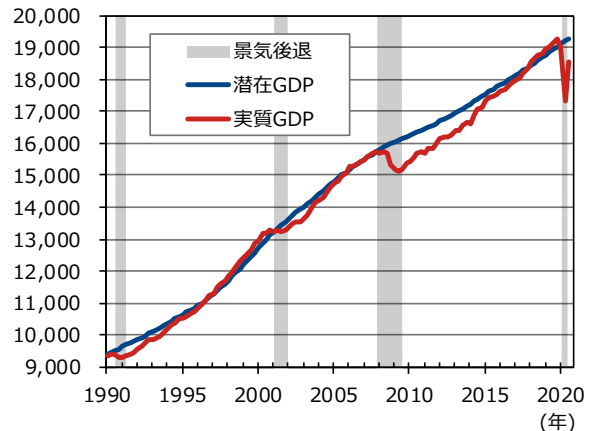


(出所) 米商務省経済分析局サイト  
(<https://apps.bea.gov/iTable/iTable.cfm?reqid=19&step=2#reqid=19&step=2&isuri=1&1921=survey>) より野村アセットマネジメント作成

### 図2：米国の実質GDPと潜在GDP

期間：1990年1-3月期～2020年7-9月期、四半期

(2012年価格、10億米ドル)



(出所) 米商務省経済分析局サイト（図1と同じ）、米議会予算局サイト  
(<https://www.cbo.gov/data/budget-economic-data#4>) より野村アセットマネジメント作成

(注) 図1、2の景気後退について、2020年2月を山に景気後退に入ったが、景気の谷はまだ確定はしていない。

### 重要イベント

- 11月2日 米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数（10月）
- 11月3日 米大統領・上下院選挙投票
- 11月6日 米雇用統計（10月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。